

■ 教員紹介

アシュウェル, ティム 教授 専門分野：応用言語学・外国語教育	
研究内容	現在一番興味があるのは、「中学校英語教員の教材使用」である。授業観察を行い、実際の授業でどのような指導法（教科書や他の教材の使用についても）がなされているかを観察する。エスノグラフィックな方法で、教員がどのように教材を用いているか、またどのような指導法を用いているかを描写する。そのデータを基になぜそのような教材を用いたか、なぜそのような指導法を選択したかということについて、授業観察を踏まえアンケートを実施し考察を行う。アンケートの回答について、教員への聞き取り調査を実施する。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「Patterns of Teacher Response to Student Writing in a Multiple-Draft Composition Classroom: Is Content Feedback Followed by Form Feedback the Best Method?」 <i>Journal of Second Language Writing</i> 第9号, 2000年 2. 「The Effectiveness of Form-focused English Teaching Materials」. In B. Tomlinson & H. Masuhara (Eds) <i>Research for Materials Development in Language Learning: Evidence for Best Practice</i>. London: Continuum, 2011年 3. 「An Investigation of Integrated and Closely Sequenced Form-Focused Instruction」 <i>JALT Journal</i> Vol.37, No.2, 2015年

阿部 康人 講師 専門分野：コミュニケーション学	
研究内容	「市民参加」と「データ/メディア」と「コミュニケーション」をキーワードに福島第一原子力発電所事故以降の市民による放射線測定の実践を中心に調査しています。そのほか、市民によるコミュニケーション戦略/戦術に関する研究も行ってきました。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. Abe, Y. (2019). Making civic media in the post-Fukushima Japanese media ecology. In J. Hunsinger, & A. Schrock (Eds). <i>Making Our World: The Hacker and Maker Movements in Context</i> (pp.37-53). New York: Peter Lang. 2. Abe, Y. (2017). Why manga matters after Fukushima. <i>NMC Media-N: Journal of New Media Caucus</i>. Link to full text: http://median.newmediacaucus.org/uncovering-news-reporting-and-forms-of-new-media-art/why-manga-matters-after-fukushima/ 3. Abe, Y. (2017). Reimagining Riben Guizi: Japanese tactical media practice after the 2010 Senkaku/Diaoyu boat collision incident. <i>International Journal of Communication</i>, 11, 344-362. Link to full text: http://ijoc.org/index.php/ijoc/article/view/3063/1906 4. Abe, Y. (2014). Safecast or the production of collective intelligence on radiation risks after 3.11. <i>Japan Focus</i>. Link to full text: http://www.japanfocus.org/~Yasuhito_Abe_/4077 5. Abe, Y. (2013). Risk assessment of nuclear power by Japanese newspapers following the Chernobyl nuclear disaster. <i>International Journal of Communication</i> 7, 1968-1989. Link to full text: http://ijoc.org/index.php/ijoc/article/view/1848/982

石川 憲洋 教授 専門分野：モバイルユビキタスコンピューティング, スマートホーム	
研究内容	<ol style="list-style-type: none"> (1) 異種ネットワーク環境において、PC、スマートデバイス、情報家電、白物家電、ヘルスケア機器、IoTデバイス（センサデバイスなど）の様々なデバイスをシームレスに接続するためのオーバーレイネットワークのアーキテクチャ、プロトコル、メタデータ及びアプリケーションに関する研究 (2) モバイルインターネットプロトコル及びモバイルアプリケーションに関する研究 (3) 次世代インターネットアーキテクチャ及びプロトコルに関する研究 (4) コンシューマ・デバイス（スマートフォン等）及びコンシューマ・サービス（スマートホーム等）に関する研究
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. PUEC Activities on Overlay Networking Protocols and Metadata for Controlling and Managing Home Networks and Appliances, <i>Proceedings of THE IEEE</i>, Vol.101, No.11, PP.2355-2366 (2013) 2. <i>Mobile Peer-to-Peer Computing for Next Generation Distributed Environments: Advancing Conceptual and Algorithmic Applications</i> (Edited By Boon-Chong Seet) : Chapter XVII (Peer-to-Peer Networking Platform and Its Applications for Mobile Phones), <i>Information Science Reference</i>, pp.374-396, IGI Global (2009) 3. PUEC Architecture, Protocols and Applications, 4th IEEE Consumer Communications and Networking Conference (CCNC 2007) (2007) 4. Experiment on and Analysis of Mobile Content Transformation using XSLT, <i>Software: Practice and Experience</i>, John Wiley & Sons, Vol. 36, Issue 7, pp.761-783 (2006) 5. Domain Constrained Multicast: A New Approach for IP Multicast Routing, <i>Telecommunication Systems Journal</i>, Springer, Vol.27, Issue 2 - 4, pp.207-227 (2004)

梅田 道生 准教授 専門分野：選挙制度, 投票行動論, 日本政治, 政治意識	
研究内容	私は今日に至るまで、民主主義体制において大小さまざまな政治・社会集団の利益が代表される過程、またこの過程に対して選挙制度に代表される政治制度が及ぼす影響について主に計量的な手法を用いた研究を行ってきた。近年は選挙制度や選挙区の社会経済的構図に規定される選挙環境の多様性と、これによる政党や候補者の選挙戦略に焦点を当てた研究を行い、例えば参議院選挙区の定数が異なることに対応した政党の選挙戦略について研究を行っている。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. Three Essays on the Party Strategies under the Mixed-Member Electoral System. Ph.D. Thesis submitted to University of Michigan, Ann Arbor. 2011. 2. The Liberal Democratic Party Its adaptability and predominance in Japanese politics for 60 years. <i>Asian Journal of Comparative Politics</i>, 4 (1), 2019. 3. No Sorting, No Advantage: Regression Discontinuity Estimates of Incumbency Advantage in Japan, <i>Electoral Studies</i> 43, 2016. (Coauthored with Kenichi Ariga, Yusaku Horiuchi, Roland Mansilla). 4. 「党首選改革と政党支持率」, 樋渡展洋・斎藤淳編『政党政治の混迷と政権交代』第9章, 東京大学出版会 2011年 (ケネス・盛・マッケルルウェインとの共著)

各務 洋子 教授 専門分野：グローバル経営論	
研究内容	現代企業のグローバル展開に焦点をあて、企業の所属する業界構造とその変容、利害者集団との関係、競争状態の変化といった外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報を軸とした内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、マネジメント形態等を研究する。特にグローバル化時代に必須の要素として、グローバル企業の多種多様なメディア戦略、メディアマネジメントと企業持続性の仕組みについて企業戦略論を軸として分析する。実証研究を重ねると同時に、グローバル戦略における理論的フレームワーク構築に取り組む。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各務洋子「グローバル企業のメディアマネジメントに関する一考察—発信力が組織の持続性に及ぼす影響」『研究所年報』第30号, 駒澤大学マスコミュニケーション研究所発行, 2012年。 2. 各務洋子「ハリウッドの経営戦略」菅谷実, 中村清, 内山隆編『映像コンテンツ産業とフィルム政策』丸善株式会社, 2009年。 3. Kagami, Yoko, "Global Management for the Content Generating Firms-Multiplatform Strategy Performance in Globalizing Processes," <i>Journal of Global Media Studies</i>, Vol. 1, 2007. 4. 各務洋子「コンテンツのデジタル化とトランスナショナル戦略—プラットフォームの多様化とグローバル化という課題」菅谷実, 宿南達志郎編『トランスナショナル時代のデジタル・コンテンツ』慶應義塾大学出版会, 2007年。 5. 各務洋子「世界のコンテンツ産業の企業行動—メディアコングロマリットの動向を中心として」長谷川文雄, 福富忠和編『コンテンツ学』世界思想社, 2007年

川崎 賢一 教授		専門分野：文化社会学
研究内容	研究内容について、文化的グローバル化の現代文化システムを、文化政策・文化産業・文化交流の3つの領域から、比較的観点から社会的に追及することを目指してきた。その際、キーになるのは、都市で、世界都市・グローバル都市・グローバルクリエイティブ都市。そして近年はスマートシティを視野に入れながら、研究を進めてきた。具体的な対象としては、アメリカ（ニューヨーク）・ヨーロッパ（ロンドン・パリなど）・アジア（ソウル・北京・上海・香港・シンガポール・東京など）など、多元的に分析枠組や分析内容を様々な機会に発表してきた。	
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 川崎賢一・伊志嶺絵里子、「文化はデザインするのか、変容するのか？：シンガポールの文化制度からの考察」（中西（編）「グローバル社会の変容」に所収）、晃洋書房、2020年、194-210頁 Kenichi Kawasaki, 2019, Globalization and Cultural Systems: Japanese Cool Culture and Singapore Cultural System, 14th Summit Forum of Arts and Design Education of Shanghai Institute of Visual Arts, pp.1-5 川崎賢一、2018、「転換期にあるシンガポールの文化制度：グローバル創造都市の新たな展開」、科学研究費補助金研究成果報告書(基盤研究C、課題番号15K03866)、92頁 川崎・浅野（編）、「<若者>の溶解」、勁草書房、2016年10月、246頁 Cultural Globalization and Contemporary Japanese Culture, Kenichi Kawasaki, in The International Conference on Creative Industries and Cultural Economics (19-21 March 2014), Graduate Institute of Creative Industries, Shih Chien University, Taiwan, 2014, p.p.318-331 	

絹川 真哉 教授		専門分野：応用ミクロ経済学・計量経済学
研究内容	産業組織論、法と経済学の分野を中心に、応用ミクロ経済モデル、計量経済分析を用いた理論・実証研究を行っている。主なテーマは、特許・著作権を中心とする知的財産権の制度、国や企業のイノベーション戦略などである。現在、前者に関しては、著作権法の権利制限の制度設計問題、後者に関しては、大学における商業研究の拡大の影響について研究を行っている。	
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 絹川真哉2018「著作権法におけるルール対スタンダード：フェアユースの法と経済学」<i>Journal of Global Media Studies</i>, 22, pp. 59-70. Shinya Kinukawa, 2017, "Exploring a Better Design of copyright Law," <i>Review of Economic Research on Copyright Issues</i>, 14(1), pp. 55-80. Shinya Kinukawa and Kazuyuki Motohashi, 2016, "What determines the outcome of licensing deals in market for technology? Empirical analysis of sellers and buyers in biotechnology alliances," <i>International Journal of Technology Management</i>, 70(4), pp. 257-280. Yasuhiro Arai and Shinya Kinukawa, 2014, "Copyright Infringement as User Innovation," <i>Journal of Cultural Economics</i>, 38(2), pp.131-144. 	

高 媛 教授		専門分野：社会情報学、歴史社会学
研究内容	ツーリズムとメディアをキーワードに、近代日本がアジアで行っていた観光活動を題材として、メディアによって構築される文化と国家のさまざまなありようを、歴史社会学のアプローチから捉えることを目指してきた。具体的に、日露戦争後から終戦までの間、「満洲」（現・中国東北部）における日本の観光開発に焦点を当て、絵葉書や旅行パンフレット、旅行雑誌、観光映画といった観光メディアの役割を検証してきた。また、戦後における満洲の観光地の変遷も視野に入れ、ポスト・コロニアルな視点から戦争と植民地の記憶の商品化について考察を行っている。	
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 論文（単）「満鉄の観光映画——『内鮮満周遊の旅 満洲篇』（1937年）を中心に」『旅の文化研究所研究報告』第28号。旅の文化研究所。43-65頁。2018年12月 論文（単）「戦争の副産物としての湯尚子温泉」『湯尚子温泉株式会社二十年史』（千葉千代吉編。湯尚子温泉株式会社刊。1941年。復刻版）。ゆまに書房。3-19頁。2016年 著書（共）『満蒙開拓青少年義勇軍の旅路——光と闇の満洲』。旅の文化研究所編。森話社。「招待旅行にみる満洲イメージ」担当。36-67頁。2016年 論文（単）「観光・民俗・権力——近代満洲における「娘々祭」の変容」『旅の文化研究所研究報告』第25号。旅の文化研究所。75-91頁。2015年12月 論文（単）「帝国の風景——満洲における桜の名所『鎮江山公園』の誕生」『Journal of Global Media Studies』第11号。駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部。11-23頁。2012年12月 	

芝崎 厚士 教授		専門分野：国際関係論、国際文化論、国際関係思想、グローバル交流論
研究内容	<ol style="list-style-type: none"> 従来の「国際関係論」「国際政治学」を乗り越える新しい学問としての「グローバル関係論」を構想し、構築する学問論的研究 国際関係における文化をグローバルな視点からとらえる、思想的、実証的、理論的研究 国際関係を動かす力としての「感情」に関する理論的研究 「グローバルな世界の読み書き」能力を向上させる授業実践の研究 国際関係をめぐるさまざまなメディア表象を学際的に分析する実証的、理論的研究 	
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 『近代日本と国際文化交流 国際文化振興会の創設と展開』有信堂高文社、1999年 『近代日本の国際関係認識』創文社、2009年 『国際関係研究における人間観 恐怖の国際関係論』平野健一郎、土田哲夫、古田和子、川村陶子編『国際文化関係史研究』東京大学出版会、2013年 『対外文化政策思想の形成と展開 戦前・戦後・冷戦後』酒井哲哉編『岩波講座 日本の外交 第3巻 外交思想』岩波書店、2013年 『脱国民国家の思想からオルター国民国家の思想へ 入国民国家の思想をてがかりに』荻部直編『岩波講座 日本の思想 第6巻 秩序と規範』岩波書店、2013年 	

杉森建太郎 講師		専門分野：英語教育、異文化コミュニケーション、日本語教育
研究内容	心理的要因や文化的要因が言語学習やコミュニケーションに及ぼす影響に興味があります。特に関心のあるのは以下のテーマです。 <ol style="list-style-type: none"> 英語教育と差別 在日タイ人の言語保持とアイデンティティ 言語政策 在日外国人への日本語教育支援 	
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 「Teaching intonations to determine discourse structures to elementary school students using Karuta (card game)」[Temple University Japan, Studies in Applied Linguistics] 第39号, 2004年 「Materials for reading aloud by teachers of very young Japanese learners」[文京学院大学外国語学部/文京学院短期大学紀要] 第4号, 2005年 「Application of Self-determination theory: Helping Japanese university students with low English proficiency using appropriate teachers' communication style」[学苑] 第799号, 2007年 「The needs and motivation of Japanese university students with low English proficiency within the framework of Self-determination theory」[学苑] 第802号, 2007年 「10年間の教育と研究の回顧と今後の展望：TESOLから差別まで」[ジャーナル・オブ・グローバル・メディア・スタディーズ] 第17, 18号, 2016年 	

■ 教員紹介

テツカヨシハル 教授 専門分野：社会学メディア文化研究，文化産業研究，映画研究	
研究内容	(1) 日本の映画産業の越境化。特に他のアジア地域の映画産業との人材移動や交流を通していかに「Asia」と「Asianness」が想像され構築されつつあるか。(日本の国民映画と国民意識の変容，特に西洋からの精神的脱植民化とアジアにおける脱帝国化に関わる。)
研究業績	(2) 20世紀後半に日本を出て行った在外日本人：“Japanese Diaspora”とその文化，コミュニティ形成に関わる研究。 (3) 日本の文化的少数者による映像制作と多文化共生社会化に関わる研究。 (4) 映像コミュニケーション・ツールの普及と社会変革の可能性に関わる研究 1. Japanese Cinema Goes Global: Filmworkers Journeys, Hong Kong University Press, 2011. 2. 映像のコモポリティクス：グローバル化と日本，そして映画産業，せりか書房，2011。 3. “Global America? : Japanese-American Co-Productions from Shogun (1980) to Lost in Translation (2003)” in Cultural Studies and Cultural Industries in Northeast Asia: What a Difference a Region Makes (ed.) C.Berry et. al, Hong Kong University Press, 2009.
西岡 洋子 教授 専門分野：メディア産業論，制度論，比較制度分析	
研究内容	ゲーム理論における均衡としての制度を基本概念として，メディア産業に焦点をあてつつ，複雑に絡み合いながら存在している産業エコシステムやガバナンス構造の現状および進化について研究している。現在は，ネットワークの成長と制度形成の関係のほか，グローバルな仕組みとしてのインターネット・ガバナンス構造の成り立ちと進化，グローバルとリージョナルなガバナンス構造の関係性などについて分析している。また，インターネットを用いたコンテンツ・プラットフォームの形成に関わる産業構造や制度環境の国際比較についても扱う。
研究業績	1. 西岡洋子 (2007) 『国際電気通信市場における制度の形成と変化：腕木通信からインターネット・ガバナンスまで』慶應義塾大学出版会。 2. 西岡洋子 (2010) 『英国BBCを取り巻く制度とイノベーション：IPTVサービスの取り組みを例として』『公益事業研究』61 (4)。 3. Nishioka, Yoko and Sugaya, Minoru (2014) “Japan’s Legislative Framework for Telecommunications: Evolution Toward Convergence of Communications and Broadcasting” in Liu, Yu-li and Picard, Robert, G. eds., Policy and Marketing Strategies for Digital Media, New York: Routledge. 4. 西岡洋子 (2015) 『インターネット・ガバナンスの歴史と展開：制度論的一考察』『メディア・コミュニケーション』65。
朴 正洙 教授 専門分野：マーケティング・コミュニケーション，デジタル (ダイレクト) ・マーケティング	
研究内容	1) マーケティング・コミュニケーション 2) デジタル (ダイレクト) ・マーケティング戦略 3) グローバル消費者行動
研究業績	1) 朴正洙編著 (2019) 『実践ダイレクト・マーケティング講義』千倉書房 2) 朴正洙 (2018) 『セレブリティ・コミュニケーション戦略』白桃書房 3) 朴正洙監訳 (2016) 『グローバル・マーケティング・コミュニケーション』千倉書房 4) 朴正洙 (2012) 『消費者行動の多国間分析』千倉書房
服部 哲 教授 専門分野：社会情報学，システム開発，情報科学	
研究内容	地域社会における様々な課題に向き合っており，ウェブ，モバイル端末，位置情報などのメディア技術をどのように地域社会に活用していくかを実践的に追究している。具体的な研究テーマとしては，障害の有無に関係なくコミュニケーションを支援するモバイル・アプリの研究，東日本大震災の被災地の復興過程におけるソーシャル・ネットワーク・サービスの研究，大学生や若手社会人主体の地域の魅力発信方法の研究などに取り組んでいる。
研究業績	1. “Mobile Technologu of Learning and Communication for Students With Disabilities.” Handbook of Research on Software for Gifted and Talented School Activities in K-12 Classrooms. IGI Global, pp. 265-281, 2020年 2. 『ともに生きる地域コミュニティ 超スマート社会を目指す』電機大出版局，2018年 3. 「ポスター上の任意の座標位置にデジタル情報を関連付け可能なコンテンツオーサリングツールの開発」情報処理学会論文誌 Vol. 57, No. 1, pp. 270-279, 2016年 4. 『「思いつき」をつなぐネットワーク』昭和堂，2014年 5. 『Webシステムの開発技術と活用方法』共立出版，2013年 6. 「市民活動団体の活動の位置情報の発信と収集のためのWebシステムの構築」社会情報学研究，Vol. 15, No. 2, 2011年
平井 辰典 講師 専門分野：コンテンツ情報処理	
研究内容	次世代のコンテンツ及びコンテンツを取り巻く環境に関する技術開発，インタラクションデザイン，調査研究。 (1) 音楽・動画・テキストコンテンツの創作支援研究 (2) 音楽・動画コンテンツの鑑賞支援研究 (3) 音と映像の複合情報処理 (Music Video生成，映像へのBGM付与，音の視覚化) (4) 情報技術を応用した新たなコンテンツ/メディアの提案 (5) 先端コンテンツが与える影響，及ぼす変化についての調査
研究業績	1. T. Hirai and S. Sawada, “Melody 2 Vec: Distributed Representations of Melodic Phrases based on Melody Segmentation,” Journal of Information Processing, Vol. 27, pp. 278-286. (2019) 2. T. Hirai, “Frame Wise Video Editing based on Audio-Visual Continuity,” Journal of Global Media Studies, Vol. 23, pp. 71-82. (2018) 3. T. Hirai, H. Doi, and S. Morishima, “Latent Topic Similarity for Music Retrieval and Its Application to a System that Supports DJ Performance,” Journal of Information Processing, Vol. 26, pp. 276-284. (2018) 4. 平井辰典，大矢隼士，森島繁生，「既存音楽動画の再利用による音楽に合った動画の自動生成システム」，情報処理学会論文誌，Vol. 54, No. 4, pp. 1254-1262. (2013) 5. 平井辰典，中野倫靖，後藤真孝，森島繁生，「シーンの連続性と顔類似度に基づく動画コンテンツ中の同一人物登場シーンの同定」，映像情報メディア学会誌，Vol. 66, No. 7, pp. J251-J259. (2012)
星野 真 講師 専門分野：開発経済学	
研究内容	現代中国における所得分配，地域格差を研究している。経済統計の定義，国際比較にも関心を広げている。
研究業績	1. “Convergence Clubs in China: A Comparative Analysis of East Asia and Emerging Nations,” International Journal of Economics and Business Modeling, 5 (1), 2014年. 2. 「地域経済格差」『ユーラシア地域大国の持続的経済発展』ミネルヴァ書房，2013年. 3. “Measurement of GDP per capita and Regional Disparities in China, 1979-2009,” RIEB Discussion Paper Series, DP2011 (17), 2011年. 4. 「中国内陸部における政府間財政移転の決定要因と再分配効果—県レベルデータを用いた実証分析」『アジア研究』55 (1), 2009年.

松前 恵環 講師	専門分野：情報法、プライバシー・個人情報保護法
-----------------	-------------------------

研究内容	<p>(1) 情報法に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マス・メディアの表現の自由や名誉毀損といった、メディアに関する法制度を巡る伝統的な問題に加え、著作権法をはじめとする知的財産権法や情報媒介者であるISPの責任、個人情報保護法、情報公開法、サイバー犯罪等の問題も含め、情報に関わる法制度のあり方について広く研究を行っている。 <p>(2) プライバシー・個人情報保護法に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシー：個人情報の保護に関する法制度について、EUや米国の法制度と日本の法制度との比較法的考察を行い、日本のプライバシー・個人情報の保護に関する法制度のあり方について研究を行っている。 ・新たな情報技術の進展との関係で生じるプライバシー・個人情報の保護の問題に焦点を当て、社会の変化に即したプライバシー・個人情報保護法制のあり方について研究を行っている。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 松前恵環「Google問題(2)：位置情報とプライバシー」多賀谷一照、松本恒雄編『情報ネットワークの法律実務』追録第76-79号4777の1-14(-4778)頁(第一法規、2017年12月) 2. 松前恵環「社会保障・税番号制度とプライバシーに関する一考察：個人番号の利用範囲の拡大を巡る課題に注目して」『Journal of Global Media Studies』17-18合併号191-206頁(2015年3月) 3. 松前恵環「個人によるカメラ監視と米国不法行為法上のプライバシー権の限界：「ポリオプティコン」の時代におけるプライバシー」『社会情報学研究』16巻2号111-127頁(日本社会情報学会、2012年3月) 4. 松前恵環「位置情報技術とプライバシーを巡る法的課題：GPS技術の利用に関する米国の議論を中心に」堀部政男編著『プライバシー・個人情報保護の新課題』235-286頁(商事法務、2010年4月) 5. 松前恵環「国際的な個人情報の流通とプライバシーに関する考察」『InfoCom Review』45号28-52頁(情報通信総合研究所、2008年7月)

山口 浩 教授	専門分野：経営学
----------------	----------

研究内容	<p>デリバティブ評価理論を経営学に応用するリアルオプションを、より大きな視点から不確実性を「味方」にする技術としてとらえたことがきっかけで、不確実性に対する新しい対処のあり方を大きなテーマとして取り組んできた。そのため、未来をよりよく知り、あるいは納得して臨むための集合知メカニズム、人間のアイデンティティや社会関係を多重化することでリスク分散を図る仮想世界など、金融の技術、契約の技術、及び情報の技術の新たな融合のかたちとその可能性を探り、様々な機会に発表している。</p>
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 山口浩、「[リアルオプション思考]で入札制度を改革する」(リアルオプションと経営戦略、高森寛編に所収)、シグマベイスキャピタル、2006年、pp.115-136 2. 山口浩、「Webコンテンツ産業の経済」(情報社会論：超効率主義社会の構図、加納寛子編に所収)、北大路書房、2007年、pp.139-193. 3. 山口浩「事業計画策定における「予測市場」の活用」(金融・会計のビジネス数理、牧本直樹編、朝倉書店、2007年、pp.30-50(山口浩、他著)) 4. Hiroshi YAMAGUCHI, "On Policy Issues "in" Virtual Worlds: Beyond the "Seniority-Based Dragonball Economy"『デジタルゲーム学研究』Vol. 1, No. 1: 2007, 54-64. 5. Hiroshi YAMAGUCHI, "General Election Hatena: The First Political Prediction Market in Japan,"『Journal of Global Media Studies』, Vol. 1: 2007, 71-76.

吉田 尚史 教授	専門分野：情報工学、データベースシステム、マルチメディアシステム
-----------------	----------------------------------

研究内容	<ol style="list-style-type: none"> (1) メディアデータベースを対象としたデータマイニングおよび分析に関する研究。 (2) 動画データベースを対象とした検索方式に関する研究。 (3) データベース技術の応用による教育システムに関する研究。 (4) 医療および遺伝子データベースを対象としたデータマイニングに関する研究。 (5) ドキュメントマイニングに関する研究。 (6) マルチメディアデータベースの実現に関する研究等。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. Naofumi Yoshida, Jun Miyazaki: A Multi-Disciplinary Approach of Business Architecture and its Business Intelligence Applications for IoT Big Data, The 21st World Multi-Conference on Systemics, Cybernetics and Informatics: WMSCI 2017, pp. 378-380, Orlando, Florida, USA, July 8-11, 2017. 2. Ken HONDA and Naofumi YOSHIDA: An Evaluation Model of Credibility Calculation System for Natural Disasters, The Proceedings of the 27th International Conference on Information Modelling and Knowledge Bases, pp. 464-475, Krabi, Thailand, June 5-9, 2017 3. Naofumi Yoshida: A Mutual Resource Exchanging Model and its Applications to Data Analysis in Mobile Environment, 19th East-European Conference on Advances in Databases and Information Systems (ADBIS2015), Workshop on Data Centered Smart Applications (DCSA 2015), Springer CCIS 539, pp. 251-258, Futuroscope, Poitiers - France, September 8-11, 2015. 4. Naofumi Yoshida: A Mutual Resource Exchanging Model in Mobile Computing and its Applications to Universal Battery and Bandwidth Sharing, Information Modelling and Knowledge Bases XXV, Vol.260, Frontiers in Artificial Intelligence and Applications, pp. 264-271, ISBN: 978-1-61499-360-5 (print), 978-1-61499-361-2 (online), Feb 2014. 5. Pekka Sillberg, Shuichi Kurabayashi, Petri Rantanen, Naofumi Yoshida: A Model of Evaluation: Computational Performance and Usability Benchmarks on Video Stream Context Analysis, Information Modelling and Knowledge Bases XXIV, 251 of Frontiers in Artificial Intelligence and Applications, pp. 188-200, ISBN: 978-1-61499-176-2, 2013.